

## 論文要旨

リーマンショックに対して多くの議論がなされている中、**Aiginger** は経済の強靭性という概念に注目し、「危機の可能性を減少したり、危機の影響を減殺したりする国民経済の能力」と定義した。この経済の強靭性はあまり注目されてこなかった概念であった。他方、土木計画学の分野では様々な防災対策が講じられ人々の安全な暮らしを支えてきた。一方、自然災害ではなく、金融危機のような経済的なショックについては十分な議論がされてこなかった。土木計画学が生活の社会基盤に関する研究である以上、自然災害のみならず、経済的なショックについても考慮を入れるべきであると考えられよう。

そこで本研究では、リーマンショックを例に、経済強靭性の高い国はどのような国であるか、またどのような特徴を兼ね備えた国であるかを国別のマクロ経済データを用い実証的に分析を行った。

分析の結果、「輸出の拡大」、「工業製品の輸出」、「インフレ率」といった要因は、我が国を含む主要先進国においては強靭性を決定付ける要因であることが示唆された。